

412) 冬の旅人 99.12.12

この街で過ごした日々の 思い出が像を結んで  
不確かな青い記憶が 色褪<sup>いろあ</sup>せた空を横切<sup>よぎ</sup>った  
薄<sup>はくじょう</sup>情なときの流れに 逆らったコーヒーハウス  
若き日の夢を追いかけて ただ一人冬の旅人

雑踏の曇りガラスに 青春の記憶が映る  
退屈な歴史の授業 抜け出して君と過ごした  
一杯の冷めたコーヒー おりふし折<sup>おりふし</sup>節に交わした言葉  
僕達の時は止まって 永遠が二人を包んだ

一つ傘愛を感じた 雨の日のくちなしの花  
口づけを交わした夜の アンフィニの君の温もり  
人生の節目節目に 思い出す君の面影  
ひとときの夢を追いかけて ただ一人冬の旅人

あの頃の二人の会話 日記にも残っていない  
霧の中愛は解けて 彼女とははぐれていった  
思い出に別れを告げて 人はみな年を重ねる  
憧れを別れに替えて ただ一人冬の旅人

